

総合振興計画次期基本計画策定に向けた
「職員ワークショップ」
【検討結果の報告】

平成23年2月1日
参加職員一同



目次

「職員ワークショップ」開催概要	-----	2
-----------------	-------	---

各グループの検討結果

Aグループ「志のある人と企業が集まる都市 選ばれる都市への進化」	-----	3
Bグループ「人とまちとがつながり、「育つ」都市」	-----	10
Cグループ「「みんなで安心をつくる！」	-----	18



「職員ワークショップ」開催概要

1. 目的

中堅・若手職員の柔軟な発想に基づくアイデアの発掘
総合振興計画次期基本計画の策定過程における検討素材とする。

2. テーマ

「今後、さいたま市が引き続き成長するために何が必要か」

3. 検討経過

(第1回)平成23年12月18日(日)

- ・割り当てられた「検討の視点」に沿った本市の環境分析(強み・弱みの特定)
- ・重点的に検討すべき方向性の絞り込み(「検討テーマ」の決定)

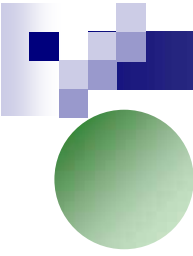
(第2回)平成24年1月15日(日)

- ・「検討テーマ」に沿った具体的取組の検討など

(第3回)平成24年2月1日(水)

- ・市長への提言発表会

	検討の視点	検討テーマ
Aグループ	「まねく」	志のある人と企業が集まる都市 選ばれる都市への進化
Bグループ	「そだてる」	人とまちとがつながり、「育つ」都市
Cグループ	「まもる」	みんなで安心をつくる!



総合振興計画次期基本計画策定に向けた
職員ワークショップ

各グループの検討結果

Aグループ 「志のある人と企業が集まる都市
選ばれる都市への進化」 【まねく】

Bグループ 「人とまちとがつながり、「育つ」都市」
【そだてる】

Cグループ 「みんなで安心をつくる！」
【まもる】

2.各グループの検討結果 Aグループ:「志のある人と企業が集まる都市」を実現する【まねく】

検討メンバー一覧

氏名	所属
小澤 剛史	行政透明推進課
今村 嘉宏	文化振興課
高野 智之	環境整備センター
山口 正人	産業展開推進課
肥田 利弘	大宮駅東口まちづくり事務所
中田 英克	土木総務課
斉藤 祐一	課税課（西区役所）

2.各グループの検討結果 Aグループ:「志のある人と企業が集まる都市」を実現する【まねく】

本市の環境分析：全体像

「人や企業が集い、活気あふれる都市」
の実現に向けて【まねく】

本市の「強み」

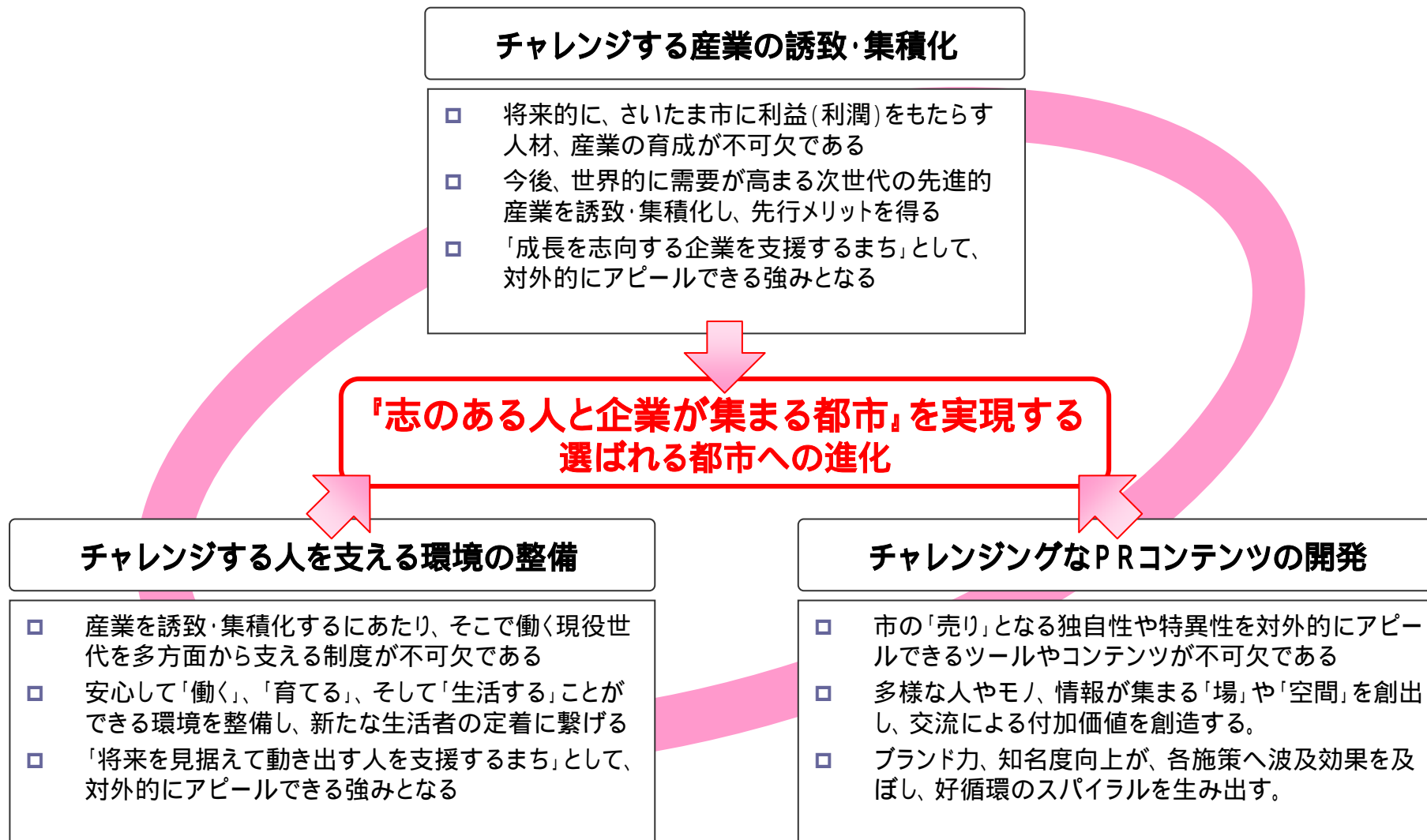
首都圏有数の立地環境
東日本のゲートウェイとしての機能
自然災害が少ない
人口が多く増加率も高い
豊富かつ多様な地域資源の存在
多様な一流スポーツを楽しめる環境
文教都市としての高いイメージ
など

本市の「弱み」

今後の少子高齢化
空港・港湾がない
国際化の基盤が弱い
企業立地の適地が少ない
魅力あるランドマークがない
ブランド力が低い
周辺都市と比べ優位性が低い
東京への通過都市
など

2.各グループの検討結果 Aグループ:「志のある人と企業が集まる都市」を実現する【まねく】

成長し続けるための取組：提言の全体像



2.各グループの検討結果 Aグループ:「志のある人と企業が集まる都市」を実現する【まねく】

提言 : チャレンジする産業の誘致・集積化

提言の概要

- 先端技術が生まれやすい環境を整備し、人と企業の知的活動を積極的に誘致
- 今後成長していく分野を後押しし、投資対効果の高い効率的な誘致
- 起業者や先進的事業に取り組む企業、専門分野の人材への徹底的な支援

具体的取組

【主な取組(代表例)】

□職住近接の「産業タウン構想」

「住工混在のない」良好な企業適地の創出
企業(誘致)エリア、商業施設・一般利用エリア、居住エリアを備えた産業タウンの建設

□～東日本の「知」が集まる～ (仮称) 研究機関誘致事業

鉄道利便性を生かした、各新幹線沿線にある国立大学の連合大学・合同研究機関の設置

□起業者・成長産業・専門家集団向け支援(インキュベーション)プログラム

「知財戦略支援」、「技術革新支援」、「販路開拓支援」など、起業者や起業向けの多様な支援制度
芸術、学術等の様々な専門分野の人材に選ばれるために、
共用アトリエ、産学官連携拠点、レンタル研究室等を提供、及び各種奨学金を創設



2.各グループの検討結果 Aグループ:「志のある人と企業が集まる都市」を実現する【まねく】

提言 : チャレンジする人を支える環境の整備

提言の概要

- 子育て世帯の居住環境の整備・充足化
- 徹底した現役世代の生活・就労支援
- 「高齢社会」と「次世代育成」に適應するユニバーサル社会を構築

具体的取組

【主な取組(代表例)】

□子育てしながら働き続けられるまちづくりの推進

場所提供型の「保育ママ」「放課後児童クラブ」などによる子育て支援施設の拡充
子育てしながら安心して働ける企業を誘致するための「(仮称)子育て応援事業所補助金」の導入
都内との差別化を図る「新都心駅周辺WLB(ワークライフバランス)オフィス街整備事業」



□～人と企業が成長し続けられる～ 専門性の高い教育制度の構築

市内高校への専門課程設置や職業教育の充実
海外研修や大学・大学院での学習補助など、企業内人材育成制度への補助

□生活環境都市創造プログラム ～ユニバーサル先進都市を目指して～

「歩行者に優しい」歩行優先の生活道路の徹底
ユビキタス・コンピューティング導入による社会インフラの整備



2.各グループの検討結果 Aグループ:「志のある人と企業が集まる都市」を実現する【まねく】

提言 : チャレンジングなPRコンテンツの開発

提言の概要

- 国内外にアピール可能な市の既存資源に付加価値を付与し、PR力の強いコンテンツを開発
- 行政主導のPR活動から脱却した、市の「ブランド」及び「ネームバリュー」向上
- 多様な人やモノが集まり「場」や「空間」、遊びと学びを融合させた先進施設の創出

具体的取組

【主な取組(代表例)】

□世界の盆栽「Bonsai」ブランドの構築

「盆栽の聖地」としての国外・国内双方への徹底したPR(盆栽文化の輸出/国際観光フェア出展)
「武家」「茶」など、縁のある文化とのコラボレーション



□～いつでも！どこでも！さいたま市～ さいたまコンテンツ創出事業

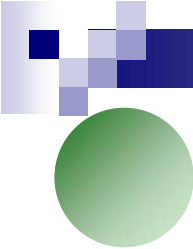
地域メディアやSNSを利用した、市民主導による「草の根」的コンテンツの発信
「高校生以下の市民」を強化ターゲットとした、さいたまプライドの創造



□人とモノが集まり、交流する「場」と「空間」の創出

「さいたまマーケット」「さいたまマルシェ」による現代版「市」の創出
民間活力を利用した「エデュテイメント施設」の誘致





総合振興計画次期基本計画策定に向けた 職員ワークショップ

各グループの検討結果

Aグループ 「志のある人と企業が集まる都市
選ばれる都市への進化」 【まねく】

**Bグループ 「人とまちとがつながり「育つ」都市」
【そだてる】**

Cグループ 「みんなで安心をつくる！」
【まもる】

2.各グループの検討結果 Bグループ:人とまちとがつながり「育つ」都市【そだてる】

検討メンバー一覧

氏名	所属
関口 洋輔	行財政改革推進本部
唐沢 未帆	厚生課
平井 貴夫	コミュニティ推進課市民活動支援室
井上 裕太	子育て企画課
津田 浩良	クリーンセンター西堀
村上 正史	経済政策課
堀田 大	都市総務課

本市の環境分析：全体像

「地域資源を活かした持続可能な都市」
【そだてる】

本市の「強み」

若い世代が多い
マンパワーがあり、大学が多い
子育てに対する良いイメージが高い
多くの優良企業の存在
市民参加を促すと予想以上の反応
市民活動を促す事業の多さ
鉄道の結接点がある
数多くの魅力やユニークな施策
デメリットが少ない など

本市の「弱み」

ベクトルが都内に向いている
自分でまちをつくる意欲が低い
子育て世代の視点を持ったマーケティングができる企業が少ない
企業と市民活動団体との距離
まちへの愛着の低さ
地域コミュニティの薄弱化
市内を結ぶ交通網が弱い
行政のPR下手
これといった特色がない

2.各グループの検討結果 Bグループ:人とまちとがつながり「育つ」都市【そだてる】

主要検討項目と検討のテーマ

地域資源を活かした
持続可能な都市

「新さいたま市民」を育てる

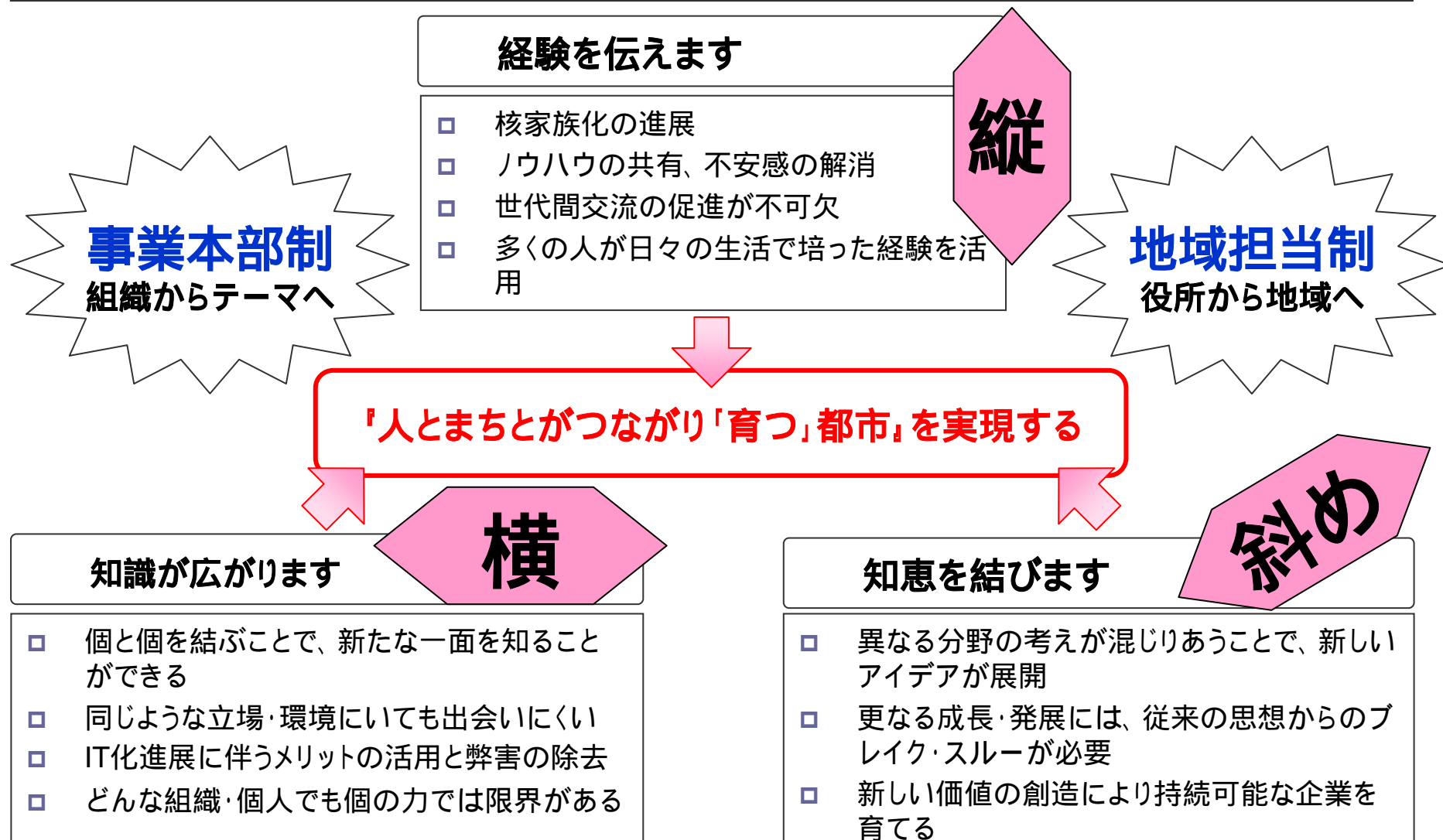
つながりを育てる

「地域ブランド力」を育てる

< 検討テーマ >

「人とまちとがつながり「育つ」都市」

成長し続けるための取組：提言の全体像



2.各グループの検討結果 Bグループ:人とまちとがつながり「育つ」都市【そだてる】

提言 : 経験を伝えます ~ 縦 ~

提言の概要

- 「ベテラン」と「若手」がつながることで、不安感・負担感を解消する
- 「子ども」と「大人」がつながることで、様々な地域課題を解消する
- 「経営者」と「後継者」がつながることで、持続可能な企業の成長を促す

具体的取組

- **さいたま市人材バンク事業**
ジャンルごとにスキルや経験を有する人材を登録し、支援を必要とする人や団体からの希望により、マッチングを行う。
- **お年寄りによる子どもサポーター事業**
高齢者が子ども(主に小中学生)のサポーターになり、支援と支援を通じ関係を築く。
- **企業コミュニティ形成事業**
共通の経営課題持つ複数の企業が集うコミュニティを形成し、そこに現経営者と後継者が共に参加することで、成功企業経営者の可視化が容易でない「秘訣」の継承を図る。

2.各グループの検討結果 Bグループ:人とまちとがつながり「育つ」都市【そだてる】

提言 : 知識が広がります ~ 横 ~

提言の概要

- 「子ども」と「子ども」がつながることで、子どもの豊かな成長を促す
- 「市民」と「市民」がつながることで、市民参画意識の向上を図る
- 「企業・大学」と「企業・大学」がつながることで、自律的な企業の成長を促す

具体的取組

- **子どもの遊び場拡大事業**
原っぱの提供やガキ大将(大学生など)を配置し、子ども同士、異年齢の交流を促進し、また自由な遊びを通して遊びを作り出す力を養う。
- **ワールドカフェ IN さいたま**
無作為で抽出した若い世代や地域住民、在留外国人、大学・事業者等などの多様な主体が地域について議論する場を提供する。
- **学生活用促進事業**
企業活動(商品企画・リサーチなど)や行政活動(政策企画の現状分析・広報活動)に学生を活用し、実践的な教育機会の提供と企業や行政における人的資源配分を効率化する。

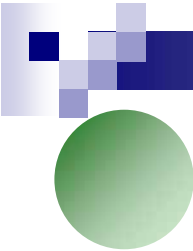
提言 : 知恵を結びます ~ 斜め ~

提言の概要

- 「学校」と「地域」がつながることで、地域に愛着を持つ子どもを育てる
- 「企業」と「子ども・保護者」がつながることで、市民協働による産業振興を実現する
- 「住民・企業」と「行政」がつながることで、真の住民自治を実現する

具体的取組

- 市内全域の小・中学校での地域交流カリキュラムの実施
市内小・中学校の各学年において、継続的に地域とのかかわりを持つカリキュラムを実施することで、地域への愛着をもった子どもを育てるとともに、地域全体での見守り意識の涵養を図る。
- 企業版マッチングファンド事業
キッズデザインに配慮した商品開発やイベント展開を実現することを目的として、企業からの研究課題やイベントの提案に対し、子どもをはじめとする市民や市民活動団体が協働する。
- 招待による土日開催の各種審議会・協議会等事業
各種審議会・協議会の公募委員について、無作為抽出による招待で委員を公募し、休日に会議を開催することで、多様な市民意見を市政に取り入れる。



総合振興計画次期基本計画策定に向けた 職員ワークショップ

各グループの検討結果

Aグループ 「志のある人と企業が集まる都市
選ばれる都市への進化」 【まねく】

Bグループ 「人とまちとがつながり、「育つ」都市」
【そだてる】

Cグループ 「みんなで安心をつくる！」 【まもる】

2.各グループの検討結果 Cグループ:「みんなで安心をつくる!」【まもる】

検討メンバー一覧

氏名	所属
新倉 尚樹	法制課
小野 哲夫	地域保健支援課
今関 和之	開発指導課（北部都市・公園管理事務所）
五味 貴成	コミュニティ課（北区役所）
浅見 昌幸	コミュニティ課（大宮区役所）
筒井 理仁	消防企画課

本市の環境分析：全体像

「みんなで安心をつくる」
の実現に向けて【まもる】

本市の「強み」

地盤が強い・自然災害が少ない
都市基盤の充実、新築建物や避難
場所の多さなど、防災性の高さ
治安の良さ
自主防犯団体の組織化
防災や事故・犯罪の防止に向けた
市の取組を市民が重要視
交通の利便性
自治会加入率の高さ

本市の「弱み」

災害時の帰宅難民への対策が不足
古い公共施設が多く耐震性に問題
一向に減少しない身近な犯罪や高
齢者を狙った犯罪
幅員や歩道の狭い道路の多さ
自転車交通の安全性の低さ
新規住民の増加等に伴う地域コミュ
ニティの希薄化
地元への愛着の低さ

2.各グループの検討結果 Cグループ:「みんなで安心をつくる!」【まもる】

成長し続けるための取組：提言の全体像

防災体制の充実

- 東日本大震災後の、市民・職員の防災に対する関心の高まり
- 現状、実際に大災害が起こった際の備えが不足

「みんなで安心をつくる」を実現する

交通の安全性の向上

- ハード面での整備(道路の拡幅のほか交通安全施設の整備)には制約・限界があり、ソフト面を中心とした対策強化が急務
- 昨今の自転車通勤者の増加など自転車利用の拡大

地域コミュニティの強化

- 防災・交通安全の確保には、地域コミュニティでの取組が不可欠
- 地域コミュニティの希薄化が進行中
- 東日本大震災後、市民の地域コミュニティへの関心と、地域貢献・ボランティア意識の高まり



提言 : 防災体制の充実

提言の概要

- 東日本大震災後、市民・職員の間で、防災に対する関心が高まっており、不安感等から体制の充実等が強く期待されていることから、地域コミュニティ単位での防災力の強化が必要
- 現状では、(行政も市民も)実際に大災害が起こった際の備えが不足しており、被害等の拡大の恐れが予見されることから、官民それぞれでの現在の備えの見直し・強化が必要

具体的取組

- 市民・市内事業者・行政それぞれの防災意識を高め、災害時を想定した情報発信力を強化
大震災により高まっている関心を備えに向かわせるべく、各方面に対し、適時適切な情報発信を行う仕組み・体制を整え、日常的に運用する
防災センターの強化・拡充やPRの強化等
- 各自の備えの基となる、官民の役割分担の明確化
自助・共助・公助による災害時の行政・地域・個人の役割を明確化し、その上で関係機関、あるいは行政と市民・市内事業者との連携を強化
震災復興マニュアルの整備等
- 帰宅困難者対策の強化
本市の特徴である多数の東京圏への通勤・通学者が、発災時に帰宅困難者とならないよう、災害時応援協定の見直し・多様化
屋形船業者との協定による荒川を活用した救援等



提言 : 交通の安全性の向上

提言の概要

- 都市の成長過程の経緯から、ハード面での整備(道路の拡幅など交通安全施設の整備)には制約・限界があることから、地域コミュニティを中心としたソフト面の対策強化により、交通事故による死傷者数を減らしていくことが必要
- 東日本大震災後、特に注目されている自転車通勤者の増加等、自転車利用の拡大に伴い、歩道における自転車と歩行者の事故等、新たな危険性の顕在化・増加への対応が必要

具体的取組

- 人・自転車・自動車の共存に向けた、安全確保のためのルールの徹底
認知度の低い自転車交通ルールの周知啓発
学校・企業・行政・地域等における自転車指導リーダーの設置・育成とリーダーによる周知
自治会等による地域単位での交通安全教室
(仮称)自転車安全フェアやサイクリングイベント等の開催を通じた正しいルールの啓発



提言 : 地域コミュニティの強化

提言の概要

- 東日本大震災を機に、防災・交通安全の確保には、改めて地域コミュニティでの取組・強化が不可欠と再認識されている中、進行中の地域コミュニティの希薄化を食い止め、「地域力」を高めていくため、若者をはじめとする関心の低い層への周知と参加促進等を強化
- 時代の変遷に対応し、自治会だけでなく、地域での自主的なコミュニティ作りを支援し、新たな「絆」の強化を図る

具体的取組

- 地域貢献意識の高まりを受け止められるような自治会づくり
「埼玉都民」「若者」「単身者」「駅近マンション住民」等、地域コミュニティ形成・強化のために今後もっと参加が必要と考えられる方々の地域貢献意識を汲み取れるような組織へと改善
若者自治会体験
ツイッター等の情報通信技術の活用による身近な自治会活動のPR、等
地域対抗でのまちづくり競争等による自治会活動への参加のきっかけ作り
地域対抗の運動会の1位の地区への防犯灯の増設、等
- 利点を実感できる新たなコミュニティ作りの促進
既存のコミュニティに限定せず、コミュニティに属していない人たちもコミュニティを形成したくなる仕掛け作り
「防災隣組」づくりによる、防災グッズ等の進呈